

第三の水俣病 心配ない

厚生省の「水銀汚染調査」まとまる

要注意河川（芳野川）も無害

第三の水俣病を防ぐため、厚生省は全国の水銀使用工場と水銀が放出されているとみられる河川などの環境汚染調査を進めていたが二十三日、四十三年度調査の結果を発表した。それによると、調査した十五工場、十五水域のうち四工場、二水域（奈良県芳野（ほうの）川、富山県神通川）からやや高い濃度の水銀が検出されたほかはいずれも水銀量は低く、特に多数の有機水銀中毒患者を出した水俣湾（熊本県）、阿賀野川（新潟県）の水銀量は著しく減っていることがわかった。同省は「水銀量がやや高かった西工場、二水域も人体に危険があるというほどのものではなく、有機水銀中毒発生の恐れはない」との結論を出している。

水俣湾の水銀は激減

全国の水銀使用工場は百九十五カ所。同省は水銀を排出する工場について汚染の実態を明らかにするため四十一年度から調査を実施した。特に四十二年度は、五十工場の水は、水銀量〇・〇一PPM以上を要注と警戒体制をしく魚

河川の名	魚の種類	水銀の値 PPM
清瀬川 (北海道)	アカヒラ	0.62
阿武隈川 (福島)	オイカワ、フナ	0.22以下
利根川 (群馬)	ウグイ、オイカワ、カマツカ	0.50
五井海城 (千葉)	ハゼ	0.14
阿賀野川 (新潟)	フナ、ニゴイ、ウグイ	0.60
姥瀬川 (岡山)	ウグイ	0.56
神通川 (山形)	ウグイ	1.22
小矢部川 (山形)	ウグイ、フナ、チマズ	0.44
鰻助川 (長野)	フナ	0.19
芳野川 (奈良)	フナ、カワムシ	1.31
新居浜海城 (愛媛)	カレイ、メバル、ゴチ、イサキ	0.25
鶴崎海城 (大分)	アサリ	0.34
延岡海城 (宮崎)	シタヒラメ	0.18
今切川 (徳島)	ハゼ、ボラ、フナ、ウナギ、イサ	0.22
水俣湾 (熊本)	アサリ、キス、タイ	0.57

介類の水銀量は、一PPM以上のものが総数の二〇％を超え、さらに一〇PPMのものがみられた。要注意④人体の毛髪の水銀汚染は普通二〇PPM以下、五〇一〇PPMを越える問題という。暫定基準を作り、行政指導に乗り出した。

このようなことから今回の調査結果が注目されたが、十一工場はいずれもこの基準並みか、それ以下。残りの四工場は〇・〇五PPMを越える程度で、その放流を受ける河川の水銀濃度も基準以下の〇・〇一〇・三PPMだった。また毒性の強い有機水銀は、一工場から〇・〇〇単位とほんの微量が検出されたにすぎない。ほとんどの工場が水銀の工場外流出につ

いて十分注意を払っていたとい

一方、河川、海域では阿賀野川、水俣湾の水銀量が大幅に減少した。

阿賀野川では魚類の水銀量平均値が〇・六PPMで、四十年前の二・四PPMと比べると大幅に減った。水俣湾でも〇・五七PPMと一般的な水銀濃度まで下がっている。これについて同省は「工場が水銀排出をしなくなったから」といっており、やはり工場排水が汚染の原因だったことを裏づけている。

このうち散布用、土じょう消滅用の水銀系農薬については、農林省がすでに指導に乗り出しており、四十四年以降は農薬とも他の農薬に切り替えられることになっている。

また水銀量がやや高いとされた芳野川は、一PPMを越える割に合いが八〇割、神通川は四〇割とかなり高い数値を示したが、両河川とも一〇PPMを越える水銀濃度を持つ魚は見当たらなかった。そして神通川の地元住民はこれらの魚をあまり食べる習慣がなく、漁業関係者も大層・長期間にわたって食べていないことがわかっており、県民の（？）も健康

生の可能性はない。また芳野川は山間地帯を流れる小さな川で、住む魚類も小さく、大層に食用に供されることはないため心配ないとしている。魚類調査の結果、ほとんどの水域の魚類から有機水銀を検出したが、その量は少なく、直ちに問題になるようなものではなかった。

同省は有機水銀中毒を防ぐため、今後の対策として①ことし七月から水質保全法で有機水銀の排出規制をしているが、さらにこれを厳重にする②すでに使用された水銀系農薬について、その地域の農家をよくつかわぬ③魚類の生態学の調査研究を強化するとともに、魚類の水銀濃度が高い地域で大量に魚を食べる習慣があればこれを改めることとしている。